１１５号

居合道だより

はじめに

先月24日、奄美大島で115年ぶりの降雪となるなどの大寒波が九州地方を襲った日、大相撲初場所千秋楽で柳川出身の大関琴奨菊が、日本出身力士としては10年ぶりとなる初優勝を飾った。

　大関昇進後26場所中で5度も「かど番」を経験するなど、今まで決して褒められた成績ではなかったし、むしろ不甲斐ない日本人力士の代表みたいな存在だったが不思議と人気があった。代名詞とも言える最後の塩を取った後、大きく背中を反らせるルーティン「琴バウアー」は特に観客を喜ばせていた。

　度重なる両膝の故障や大胸筋断裂などの大怪我を抱えながらの真摯な土俵態度は悲壮感さえ漂わせ、日本人の判官贔屓感情をそそらせてもいた。

そんな力士が待ちに待った日本人による10年ぶりの優勝を果たしたのだから日本中が沸き立ったのも当然だ。何が琴奨菊をこんなに変えたのか？確かに先場所は土俵下にいる時から実に穏やかな表情をしていたのが印象的だった。

優勝後の彼の談話によると、稽古やトレーニングの時、いや日常さえも自分で決めたことを余計なことは考えずただ黙々と実行した、逃げずに現実と向き合う、本場所でも勝負のことは考えず自分の相撲を取りきる。やるべきことをやって結果が出たということだ。

技や力とともに迷いを捨てた心の構えが原動力だった。夢を持ち続けて来たおかげでその夢を実現できた。

数々の困難に屈しない姿が多くの人に勇気と感動を与えた。

琴奨菊の大関昇進時の言葉は「万里一空」。もともとは宮本武蔵の著した「五輪の書」の「山水三千世界を万里一空に入れ満天地ともまとめる」に由来する。世界のすべては同じ一つの空の下にある。どこまで行っても同じ世界だと、冷静に物事を捉える精神的境地を示す。

転じて「どこまでも同じ一つの目標を見据え、たゆまず努力を続けるという心構え」である。

軟弱精神の筆者は何度呟いてきたことか、「艱難辛苦汝を玉にす」「正しい稽古は決して己を裏切らない」と。まるで懲りずに何回も禁煙宣言をしている輩のように。

「言うは易し行うは難し」、、、、蛇足かな？やっぱり、、、。

会員の声

居合道初心者教室に入門して

飯塚居合道同好会　初段　大塚　博

私は、平成26年9月から六ケ月間の居合道初心者教室を終了して引き続き飯塚居合道同好会でお世話になっております。

入門のきっかけは初心者教室の案内記事を偶然目にして申し込みましたが、新しい趣味、習い事と言う感覚で入門しました。ほとんど未経験の私でしたが先生や先輩方に親切に指導して頂き、感謝しております。

現在は制定の１２本の型を繰り返し練習しながら楽しさと同時に礼法を含め伝承武道であることも実感するようになりました。

家内も私の新しい稽古事を気にいっている様子で私が初めて受けた審査会でとても緊張した話など面白そうに聞いています。

まだまだ未熟ですが、楽しみながら少しも上達できるようコツコツと練習を続けていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

主な出来事と２～３月の予定

主な出来事

1月10日（日）	居合道部初稽古会	福岡武道館
	理事会	

2月～3月の予定

2月14日（日）	居合道部臨時総会	サンレイクかすや
3月１２日（土）	第42回北九州居合道大会	北九州総合体育館
3月27日（日）	居合道審査会	福岡武道館

その他

気候変動の激しい昨今、風邪やインフルエンザに十分注意しましょう。

油断大敵です。

© 公益社団法人　福岡県剣道連盟　福岡県剣道連盟　居合道部

第１１５号 平成２８年２月１日発行

発　行：福岡県剣道連盟居合道部

URL : http://riai.info/
発行人：井手友太

〒819-1132　糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847